

# 飾大台北教会

設立・平成17年12月26日

祭典日・  
第一日曜

中华民国台湾省台北県



初代会長  
趙志郎



初代夫人  
趙陳引

平成十七年十二月二十六日

初代会長 趙志郎 任命

初代趙志郎会長は昭和三年五月七日生。

九人兄弟の次男として台湾省台中県に生まれた。戦時中神奈川高座飛行機工場で一年間勤務をした。戦後台湾へ戻り、様々な職業についたが、夫人の頭痛や本人の足の怪我などが重なった時、ある大学の先生の知り合いから天理教のことを聞かされ、もっと詳しく知りたいと思い、自分からすすんで豊原市にある当時の飾大豊原布教所に参拝した。その時、飾大の三代会長竹川俊治の勧めで修養科

六四五期（九月から十一月）の日本語クラスを志願した。

修養科では教祖御伝のお話を聴き、殊に秀司先生の足の身上のお話が印象に残った。おぢばはとても清潔で、また詰所や修養科での仲間がとても親切であり、台湾に於ける佛教や道教などの信仰とはまったく異なった気持ちの清々しさを感じ、これこそ本物の教えだと確信が持てるようになっていった。

飾大三代会長竹川俊治は、昭和五十六年四月、教祖百年祭活動の一環として、まったくの未知の土地である台湾布教を志し単身で渡台し、主として台北で布教をしてよふぼくも与えられていたが、そのよふぼくや信者の丹精のためにも布教の拠点を必要としていた。

そんな矢先に趙志郎が修養科を修了して台湾へ帰ってきたので、竹川会長は趙志郎の自宅に親神様をお鎮めし、布教所を開設することを強く指示した。趙志郎

は会長の思いを素直に受け入れ、平成十三年六月二十一日趙志郎を初代所長として、飾大台北布教所が開設された。



教会の外観

毎月第一日曜日の月次祭には、台北近辺に住む飾大のよふぼく信者が次第に参拝するようになり、次第に増加して布教所の手狭さを感じるようになった。

教祖百二十年祭三年千日の年祭活動の旬に、教会設立のご守護をいただくという心がみなぎり、布教所の移転、神殿及び教職舎をお与えただけかと思いが定まり、現在地に移転、増改築を行い、教祖百二十年祭執行の直前、立教一六八

年（平成十七）十二月二十六日教会設立のお許しを戴き、翌立教百六十九年二月十九日教会設立奉告祭を執行した。初代会長に趙志郎が任命された。

なお、神殿は四階に、そして五階には応接室を含む教職舎を設置している。



神殿上段（椅子に座っておつとめをつとめる）

趙会長は、毎月十二日の台湾伝道庁の月次祭、第二日曜日の飾大豊原教会の月次祭の参拝おつとめを欠かしたことはなく、また夫人は、飾大台北教会の月次祭の直会の飲食や料理などの諸準備に、早

朝より息子の嫁と先頭になってひのきしんをしている。最近では十代の孫達もそれぞれに参加してつとめている。



中国語に翻訳されたよろづよ八首

あるよふぼくは修養科在学中に親しくなった女性と結婚の約束をしたが、台湾での就職が思うようにならず、従って結婚もなかなかできなかった。飾大の竹川俊治三代会長が就職に奔走して良い就職

先が決まり、ようやく結婚式を挙げることとなったが、兩人はおぢばで知り合ったのだからぜひともおぢばで結婚式を挙げたいと願ひ、両家の親戚を含めて二十七名がおぢばにかえり、本部教祖殿で結婚式を挙げる事ができた。一行はおぢばに滞在して別席を運び、またお守りを戴く者などが居た。これが機縁となり、後日、改めておぢばがえりをする者おさづけの理拝戴者もいて、飾大台北教会へ参拝するようになった。趙会長は、それらの人達の丹精とおたすけに昼夜席の温まる暇なく努めている。

尚、当教会は仁壽山分教会を事情復興したものである。

仁壽山分教会の初代会長森尾光三郎は晴間分教会創設者松尾為八の導きにより明治四十年三月入信、大正十四年四月十日仁壽山宣教所のお許しを戴いた。昭和三十一年十一月二十七日森尾貞二が二代会長に就任した。森尾貞二出直し後、会長が不在となっていたので、移転、改称所属変更をした。